

曳博だより

2020.1



編集・発行：(公財)長浜曳山文化協会 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町14-8 TEL 0749-65-3300 FAX 0749-65-3440
【ホームページ】<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/> 【Facebook】<https://www.facebook.com/hikiyamabunka/>

— 謹んで新年のお慶びを申し上げます —

新年は 1月4日より開館いたします



絹本着色 松鶴図 山縣岐鳳画（部分）個人蔵



紙本着色 白鼠図 西山翠嶂画（部分）個人蔵



特別展「三大山車祭－長浜祭・祇園祭・高山祭－」

令和2年1月31日(金)～3月8日(日)

一昨年、ユネスコの無形文化遺産に「長浜曳山祭の曳山行事」が登録されました。これは、全国の「山・鉾・屋台行事」三十三件の一つとして指定されたものです。この三十三件のうち長浜曳山祭は、京都祇園祭・岐阜高山祭と共に、「日本三大山車祭」としてつとに著名です。

今回の特別展は、ユネスコ無形文化遺産登録三周年記念として、特に「三大山車祭」の各祭礼の絵巻や屏風などの関連資料や模型などを公開します。

祇園祭は、京都祇園社（八坂神社）の祭礼のことと、祇園会・祇園御靈会ともいいます。現在は七月に行われますが、本来は旧暦六月の行事で約一ヶ月間かけて行われます。なかでも山鉾巡行は有名で、都の文化を代表するものとして各地の祭礼に影響を与えました。その起源は、平安時代にまで遡り、御靈信仰の流行によって牛頭天王をまつる祇園感神院で行われていた御靈会です。十世紀末には大嘗祭の標山に似せた作り物や散楽空車などが出て賑わい、平安時代末以降は田楽が中心となり



祇園祭

ます。山鉾の巡行が祭の軸となるのは、南北朝時代以降で、室町時代には下京町衆の財力で毎年趣向をこらした囃子物と山鉾が工夫されました。応仁の乱で中断し室町幕府の援助で復興しますが盛大にはなりませんでした。その後、豊臣秀吉の町並の整備によって再び勢いを増し、南蛮文化の流入によって山鉾の装飾品は豪華絢爛を極めました。祇園祭は、都市的な夏祭として祇園祭・天王祭の名で各地に伝播し、また単に山車屋台を繰り出す祭礼の原型になったのです。

高山祭は、毎年四月に行われる日枝神社の「山王祭」と、十月に行われる桜山八幡宮の「八幡祭」を指します。高山祭の起源は、はつきりしませんが、飛騨国を領した金森長近が平定した天正十四年（一五八六）から、元禄五年（一六九二）に転封するまでと考えられます。高山祭の屋台は「動く陽明門」といわれ、莊厳で華麗、幽玄と哀愁が融合し伝統美と工芸美が一体となっています。この屋台の最古の記録は、享保三年（一七一八）の「高山八幡祭礼行列」



高山祭

で、屋台四台、笠鉾一台を含む四十八の出し物で行列が構成されていましたことが判ります。元禄五年飛騨は幕府の直轄領・天領となり、江戸文化の影響を強く受けるようになり、高山祭の屋台の祖形は江戸の屋台の形式を模したともいわれます。飾金具類や絡繹人形は京都から流入し、東西文化の融合によって文化・文政年間（一八〇四～三〇）頃に高山型という独自の形態を生み出したと推定されます。

そして長浜曳山祭は、秀吉が長浜城主時代に武者行列として始まり、十八世紀前半には曳山が登場し歌舞伎狂言が行われ、江戸時代後期には現在の様な豪華絢爛な曳山となりました。この様にいずれの祭礼も、秀吉がその起源や勃興に深く関与しているのです。

三大山車祭の絵画・人形模型などを通して、長浜曳山祭が祇園祭や高山祭に匹敵する祭礼であることを再認識して頂ければ幸いです。



長浜曳山祭

展示説明会

日時…令和元年2月1日(土)午後1時半より
場所…長浜市曳山博物館展示室【予約不要】

博物館に収蔵中の曳山について

十一月に開催された秋の曳山巡行で、曳山博物館には新たに、月宮殿、鳳凰山、猩々丸、高砂山の四山が収蔵されました。月宮殿は今年の春以来、引き続きの収蔵になりますが、来年の春には出番に合わせて町内に戻り、当館には新たに萬歳樓が入ることになります。

月宮殿は、天明五年（一七八五）に岡田惣左衛門重貞によって製作された山で、藤岡家以外の大工が建造に関与したことが確認できる唯一の曳山です。十二の舞台付き山の内で最も美しい亭との呼び声が高い、重層で華やかな意匠が施された亭は必見です。

鳳凰山は文化十五年（一八一八）に旧山が焼失の憂き目にあった後、文政十二年（一八二九）に建造されました。長浜だけでなく、京都や彦根、草津、岐阜など様々な地域の職人の技により製作された山であることが、記録から分かれています。

猩々丸は十二の山の中で唯一、舟の形をした曳山です。現在の山は藤岡和泉一富によって安永三年（一七七四）に再建されました。前述のように舟形をしていることに加え、亭や張出しがなく、帆柱を備え七ツ道具を飾るなど、長浜の曳山の内でも異彩を放つ山と言えます。

1/12まで公開



鳳凰山



高砂山

1/13から公開



月宮殿



猩々丸

これら四つの曳山を、当館では常時二山ごと公開しております。一月十二日（日）までは鳳凰山と高砂山を、一月十三日（月）からは月宮殿と猩々丸をご覧になつていただけます。

修理を行ったことを示す資料が残っていることから、長浜の舞台付き山の中で最古のものであると考えられています。長浜の典型的な舞台付き曳山であり、現存する最古の曳山でもあることから、長浜の曳山の歴史を知る上で重要な曳山です。

当初十月十二日（第一土曜日）に開催を予定していましたが、台風一九号の影響により十一月三日（日）に延期して実施しました。

これは、江戸時代には秋に開催されていた長浜曳山祭の姿を伝える意味もあります。午前九時頃から、春日山、諫鼓山、青海山、月宮殿の順番で博物館から広場へ曳き出された曳山は各町内の山蔵へ戻つていきました。（月宮殿は修理中の壽山の代わりに再度収蔵される為、広場に留まりました）

午後一時頃からは博物館に収蔵される鳳凰山、月宮殿、猩々丸、高砂山が順に博物館の中に収蔵されました。

秋の曳山巡行 開催報告



三役修業塾 定期発表会

三役修業塾は長浜曳山祭の子ども歌舞伎にとつて欠くことのできない「振付」「太夫」「三味線」を地元で育成する組織です。定期発表会では、塾生の修業の成果を披露します。

【義太夫部門】令和二年一月二十六日(日)

「伽羅先代萩 御殿の段」「絵本太功記十段目 尼崎の段」

七月二十一日(日)は「義太夫部門」の発表です。義太夫部門の塾生は、垂井や米原の曳山祭にも出演するなど活躍の場を広げています。塾生の、日々の鍛錬の成果をどうぞご覧ください。

《義太夫指導》 豊澤賀千賀龍
祝



2019.11.24開催のようす

上演場所…曳山博物館伝承スタジオ
開演時間…午後二時より
参加費…入場無料・予約不要

伝承委員会 活動報告

「長浜人に学ぼう！事業」湖北ワンドーオーク
長浜歴史文化講演会（令和元年十月十七日（木））

当財団の伝承委員長が長浜文化芸術会館にて「長浜曳山祭の保存・伝承、保存活動について」の講演を行いました。長浜北高等学校一年生（二八〇名）の生徒を対象に合計三回の講演を行い、長浜の歴史や伝統文化について学習していただきました。



「裸参り・くじ取り式体験」
長浜市立西中学校 曳山文化教室第3講
(令和元年十一月十六日(土))



くじ取り式体験

裸参り体験

展示等のお知らせ

令和二年（二〇二一年）、長浜曳山祭の出番山が、ご覧いただけます。

1月13日(月)～4月3日(金)

曳山一基公開【月宮殿・猩々丸】

※令和2年4月4日(土)に
月宮殿と萬歳樓の入れ替えがあります

曳山の展示

1月31日(金)～3月8日(日)

「三大山車祭」
—長浜祭・祇園祭・高山祭—

展示説明会：2月1日(土)午後1時半より

山組マンスリー

山組マンスリーとは、1か月ごとに、各山組が担当して、博物館を活用し、来館者に長浜曳山祭や曳山の魅力についてを独自の視点から紹介・PRしていただく企画です。



1月
2月 萬歳樓



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON ST. AND HAKUBUTSUKAN Ave.

発行日：令和2年1月1日